

聖霊が結ぶ愛の交わり ローマ 8:14-17

2026. 5. 31、丘の上、NO. 774
春日部福音自由教会 山田豊

本日は、教会歴に基づくと、三位一体の主日です。この起源は10世紀頃の西方教会だと言われますが、この名称はあまり浸透せず、「聖霊降臨後の主日」としてこの主日が守られてきました。

三位一体という言葉そのものは聖書に出てきません。しかし、神はおひとりですが、父、子、そして聖霊という三つの位格を持つ方として聖書は記しているので、「神は三位一体である」といいます。これはキリスト教の単なる教えではなく、私たちの实际生活に深くかかわることです。本日は、聖霊降臨日からの流れで、聖霊をポイントとしてみ言葉から教えられたいと思います。

神は、私たちの目で見えたり、触ったりできるような存在ではありません。いかなる形をもって神を造ってはならない、という戒めを受けつつ、しかし視覚的に表したい、という人の欲求の中で、さまざまに描かれてきました。その一つが東方教会のイコンです。偶像礼拝のためではなく、神を礼拝するために、教会で定められた手法で描かれたものです。その中に、15世紀初頭に描かれた三位一体のイコンがあります。3人の人物が描かれていますが、これはアブラハムが3人の天使をもてなした物語(創世記18:1-8)がもとになっています。この場面は「アブラハムの歓待」と名付けられたイコンに描かれています。本物を見たわけではないのですが、この二つのイコンを黙想のために見ている気が付いたことがあります。両者に共通するのは、交わり、おもてなしである、ということです。そしてそれを担うのは、聖霊ではないだろうかということに思いが到ったのです。

本日のみ言葉から教えられるのは、聖霊は三位一体なる神の交わりに私たちを入れてくださる、ということです。聖霊によって、イエスを信じる者は神との親しい交わりに入れられるのです。さらに、他の兄弟姉妹との交わり、すなわち教会という一つの交わりに入れられます。またこの交わりは同心円のように広がっていく、拡大する交わりなのです。すなわち、み言葉がのべ伝えられてそれを聞いた人たちも、キリストを信じ、神と教会の交わりに入れられるのです。これはまさに、聖霊の御業です。そして、聖霊は私たちの日常生活の中で、さまざまに働いて私たちを導いてくださるのです。

聖霊は愛の帯として私たちを神と結び、他の兄弟姉妹とも一つにしてくださっているのです。

引用聖句

マタイ 28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。

そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、

出エジプト 20:4 あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。

創世記 18:1-8 1 【主】はマムレの櫛の木のそばで、アブラハムに現れた。彼は日の暑いころ、天幕の入口にすわっていた。2 彼が目を上げて見ると、三人の人が彼に向かって立っていた。彼は、見るなり、彼らを迎えるために天幕の入口から走って行き、地にひれ伏して礼をした。3 そして言った。「ご主人。お気に召すなら、どうか、あなたのしもべのところを素通りなさないでください。4 少しばかりの水を持って来させますから、あなたがたの足を洗い、この木の下でお休みください。5 私は少し食べ物を持ってまいります。それで元気を取り戻してください。それから、旅を続けられるように。せつかく、あなたがたのしもべのところをお通りになるのですから。」彼らは答えた。「あなたの言ったとおりにしてください。」6 そこで、アブラハムは天幕のサラのところに急いで戻って、言った。「早く、三セアの上等の小麦粉をこねて、パン菓子を作っておくれ。」7 そしてアブラハムは牛のところに走って行き、柔らかくて、おいしそうな子牛を取り、若い者に渡した。若い者は手早くそれを料理した。8 それからアブラハムは、凝乳と牛乳と、それに、料理した子牛を持って来て、彼らの前に供えた。彼は、木の下で彼らに給仕をしていた。こうして彼らは食べた。

1 コリント 12:3 ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、「イエスはのろわれよ」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません。

2 コリント 13:13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。

コロサイ 3:14 そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。